

日本ペインクリニック学会 Japan Society of Pain Clinicians 2019 年優秀論文賞(原著・基礎):受賞(2020 年決定/公表)の報告について

麻酔科 松岡由里子

今年度の日本ペインクリニック学会第 54 回学術集会は、当初は2020年7月9日から11日まで長野市で開催される予定でした。しかしながら、新型コロナウイルスの影響にて10月5日から6日まで同市で、と延期かつ期日も短縮されましたが、それでも現地開催は不可能との判断にて、最終的には11月に完全WEB開催となりました。従いまして、学会会場で予定されていた表彰式もなくなり、表彰状は学会からの郵送にて、今、私の手元に届いております。今年度は、同様に国内外のほとんどすべての学術集会在延期や中止、あるいはWEB開催と二転三転し、各関係の方々のご心労はいかばかりかとお察し申し上げますとともに、このような中で、栄えある優秀論文賞をいただいたことに、厚く感謝の意を表します。

本研究は、一人一人の患者様が、御自身の症状、生活、そして命と真摯に向き合いながら、私に語ってくださったお気持ちやご要望に、医療従事者としてなんとかそれにお応えしたいと考えて始めたものです。東洋医学における診断は「証」と呼ばれますが、その証に至るまでに、西洋医学ではまずお尋ねすることがない項目もあります。そして、そのような患者様との時間は、私にとって非常に貴重なものであり、医学書や論文等では得難いどころか、時にそれを覆すような患者様からの声は驚きとなり、いつまでも私の心に残っています。「先入観にとらわれず、当事者に直接お聞きしてみなければ本当のことはわからない」、「いわゆる世の常識とされていることが必ずしも正しいとは限らない」ことを患者様から教えていただき、心に刻んだ日々でした。すなわち今回の受賞は、多くの患者様が支えてくださった結果であると理解しております。

現在、未知の感染症、気候変動、環境問題等々、世界的規模で人類は様々な困難に直面しております。私自身は、甚だ微力であり、できることは非常に限られておりますが、この時代に生を享けた者として、初心を忘れず、今後も日々精進して参りたいと存じます。

